

# 「田舎」「百姓」「農夫」

## ～田園性を表すことばと「文化」～

シンキング・バーズ  
日本語研究班

### 主体表現が 客体表現に勝る時

**日** 本語には、主体表現と客体表現で受け止められ方がちがうことばがあります。自分で言う分には差し障りはないけど、他人から言われると不快に感じることばです。「被災者」のところでも触れましたが、両者は同じことばなのに、全くちがう響きを持つてしまうのです。

#### ●「百姓」が肩書きの名刺

**ボ**クはかつて、ある方と出会った時、一枚の名刺を頂きました。その方の名刺の肩書きには、「百姓」と印刷されていました。

《百姓 あい うえお》  
「百姓ですか？」と、ボクは尋ねました。  
「そう、百姓だよ。良いことばだろ」と、元中学校校長をしていた《あいうえお》さんは、自慢気に言いました。「百姓というのは、差別語ではないんだよ。誇りを持って名乗れば良いんだ」  
「でも、百姓は新聞では、使用禁止ですよ。百姓なんて使ったら、非難の嵐です」  
「そうだろうねえ。でも、私は、自分から名乗ってるんだ。人からとやかく言われる筋合いはないよ」  
ボクの頭の中で、「百姓のあいうえおさん」

という日本語が、よぎって行きました。



#### ●「田舎」への眼差し

**ボ**クたちは、田園性のことばを使う時、「文化」への一定の配慮をもって使います。

「田舎」ということばも、その一つです。都会の人が地方の人を「田舎者」と言うのと、地元の人が「こんな田舎にまで・・・」と言うのでは、立ち位置がちがいます。ボクたちは、前者を容認しません。でも、後者は容認します。「田舎」は、「稲」「伊那」と結びつくコメ文化表現だからです。

「農夫」ということばも、放送禁止用語です。かつての「看護婦」のように、性詞表現（男性）になるため、メディアは自主規制しています。でも、ボクたちは、「豊かな田園風景」にマッチするのは、時には「農夫」が適切と考えています。

#### ●「リテラシー」とことばの適正性

**ボ**クたちは、客体表現の蔑視語・差別語に反対する立場です。特にメディア上では、「リテラシー」として容認できません。Fool に対応するような日本語は、電子空間に投稿すべきではないという考えです。ただし、「田舎」「農夫」のような日本語は、適正性への配慮が時には必要と考えます。

(2017年10月9日)

**シンキング・バース新書**

ボクとワタシの日本語診断  
「田舎」「百姓」「農夫」

2017年10月10日（初版）発行

著 者：シンキング・バース  
日本語研究班

発行者：遊佐 芳泰

発行所：**シンキング・バース**

〒021-0821

岩手県一関市三関字神田105番5号

電話／FAX 0191-23-0724

※この論考の著作権は、図表を含めてシンキング・バースに帰属しています。複写、無断転載、無断転用は固くお断りします。